

クリーンセンター ニュース

創刊号

発行者
秦野市伊勢原市環境衛生組合
施設計画課（秦野市首屋 4624 番地）
Tel 0463-82-2500
Fax 0463-83-5933
E-mail: info@hadanoshi-iseharashi-kek.or.jp

平成 17 年 4 月 26 日発行

秦野市伊勢原市環境衛生組合（以下「本組合」）では、伊勢原清掃工場 180 t 焼却施設に代わる新たな清掃工場（以下「クリーンセンター」）を現し尿処理施設（秦野衛生センター）廃止後の跡地に建設する計画の検討を進めています。

これまで、クリーンセンター計画については、秦野市や本組合のホームページ、市広報などでお知らせしてきましたが、この度、より多くの皆さんにクリーンセンターの検討状況等の情報をお伝えするために「クリーンセンターニュース」を創刊しました。

このニュースは、建設用地周辺の 14 自治会（台町、仲宿、入船、山谷、池の島、蔵ノ前、御門、県営秦野団地、河原町、中野、オケ分、上大槻第 1、上大槻第 2、中里）の皆さんに回覧等としてお届けするとともに秦野市及び伊勢原市内の公共施設でも配布用として置いています。

年間 4 回程度の発刊を予定しています。本紙やクリーンセンター計画に対するご意見、ご質問等について、お気軽にお寄せください。よろしくお願いいたします。

ごみ処理施設見学会を実施

＝ 両市の市民 78 名が参加 ＝

本年 2 月 23 日(水)に秦野市民 36 人、24 日(木)には伊勢原市民 42 人が東京都多摩市にある多摩清掃工場、リサイクルセンター、アクアブルー多摩（余熱利用の温水プール）を見学しました。

多摩清掃工場は、多摩市、八王子市、町田市にまたがる多摩ニュータウン地区のごみを広域的に処理することを目的に平成 10 年 3 月に完成したごみ焼却施設で、1 日に 400 t のごみを焼却処理することができます。（本組合の伊勢原清掃工場には 180 t / 日施設と 90 t / 日施設があります。）

リサイクルセンターでは、粗大ごみとして出された家具や自転車などを修理して展示・販売しているほか、リサイクルに関する講座やイベントを開催し啓発に努めているとの説明がありました。

アクアブルー多摩は、ごみ焼却時の熱を利用した温水プールで、50m プール、流波プール、100 m のスライダーなどがあります。“市民のふれあいの場、健康づくり、総合的な水泳活動の拠点施設”と位置付け平成 12 年に完成しています。

見学後に実施したアンケートには「多摩清掃工場のような安全な施設を作れるのですか?」、「温水や温熱など余熱を有効利用した施設の建設を」等の施設に対するご意見等や「リサイクルのためには一人ひとりの分別の心がけが重要」、「ごみを減らすために、より一層の努力をしようと思う」といったごみ減量に関するご意見や感想もありました。

施設見学会は今後も企画していきますのでぜひ御参加ください。



多摩清掃工場外観



リサイクルセンターで説明を聞く参加者



アクアブルー多摩の 50 m プール

環境アセスメント手続きに向けて

＝ごみ処理技術検討委員会で検討始める＝

環境アセスメントとは

人々の暮らしを豊かにするために建設される道路、空港、ダム、発電所などは必要な施設ではありますが、その建設のために環境を損ねることがあってはなりません。

そのため、こうした大規模な開発事業を行なう場合、環境に対しどのような影響を及ぼすかを事前に「調査、予測、評価」し、その結果を地域住民に公表して意見を聴きながら、環境に配慮したより適切な計画にしていこうというのが環境アセスメント（環境影響評価）です。

ごみ処理方式を検討中

クリーンセンター（現時点で約200t/日の規模を想定）の建設に当たっては、事前に環境アセスメントの手続きを進める必要がありますが、ごみ処理方式を絞りこまないと施設が与える影響範囲を特定できませんので、アセスを始めるための準備として昨年11月に学識経験者など5名による「ごみ処理技術検討委員会」を設置して処理方式の検討を進めています。

本年3月までに検討委員会を3回開催し、この中で、検討対象とする処理技術は4つの方式（スーパークラス灰溶融、ガス化シャフト式、ガス化キルン式、ガス化流動床式）とすること。また、処理方式の評価項目として「施設整備のコンセプト」を踏まえた7つの項目（環境保全性、安定性、安全性、クリーンセンターの周辺環境との調和、エネルギーの有効利用性、資源回収性、経済性）評価方法、評価基準などを協議してきました。

今後予定している3回の会議で処理方式の詳細な評価を行い、本年夏までの取りまとめを目標に進めています。

検討委員会の要旨録は本組合ホームページで公開しています。

<http://www.hadanoshi-iseharashi-kek.or.jp/>

クリーンセンターQ&A



Q：最近のダイオキシンの状況はどのようになっているの？

A：環境省が平成16年9月に発表した平成9年から平成15年までのダイオキシン類排出総量は、平成9年の7,680～8,135g-TEQ/年に対し、平成15年では376～404g-TEQ/年まで削減が図られ、国の目標(90%削減)を超える95%削減が達成されました。また、ダイオキシン類濃度の全国平均値についても、下の表のとおり平成10年度に比べ数値の改善が見られます。

これらは国と地方が一体となってダイオキシン類の排出抑制に取り組んだ結果と言えます。ごみ焼却施設におけるダイオキシン類除去等の排ガス処理技術は確立しており、クリーンセンターもこうした技術を導入し、安全・安心な施設づくりを進めます。

ダイオキシン類の濃度(全国平均値)の推移

調査項目	平成10年度	平成15年度	環境基準値
大気	0.23pg-TEQ/m ³	0.068pg-TEQ/m ³	0.6pg-TEQ/m ³
水	0.50pg-TEQ/L	0.24pg-TEQ/L	1pg-TEQ/L
土	6.5pg-TEQ/g	4.4pg-TEQ/g	1000pg-TEQ/g

(出典:環境省「平成15年度ダイオキシン類に係る環境調査結果」より)

pg(ピコグラム)は1兆分の1^㉔
TEQ(ティーキュー)は種類の違うダイオキシン類の量当たりの毒性が等価になるように換算した濃度

このニュースへのご意見、ご質問等は下記へお寄せください。

秦野市伊勢原市環境衛生組合 施設計画課

電話:82-2500 FAX:83-5933

E-mail: info@hadanoshi-iseharashi-kek.or.jp

